

入れた新執行方策への移行が必要であると思います。そこで、一つめに、監査・審査業務を主管とする部局をつくっていただきたいと思ひます。二つめに、監査委員の補佐的役割を持ち、業務・制度・事業の審査を目的とした有識者で構成される委員会の創設をしてはどうかと思ひますがその考え方について伺ひます。

## 答 宗宮孝生町長

監査・審査業務を主管する部局の配置についてありますが、本町においては、総務課が担当しております。今後は、議会の皆さん、地域審議会のご意見、揖斐川町行政改革推進本部の作成する行政改革大綱の結果を踏まえながら、監査事務のあり方、事務組織の見直しを検討してまいります。

監査委員の補佐的役目を持ち、業務・制度・事業の審査を目的とした有識者で構成される委員会の創設については、同様に、地域審議会や行政改革大綱の結果を踏まえ、今後の検討課題としてと考えております。

### 錦野悦朗議員

## 問 中学校の統合について

少子高齢化社会の到来は、当然児童生徒の減少につながり、学校によつては学級編成が困難となりつつあり、年々小規模化しているのが現状であります。これを打開するためには、今後、中学校の統合を真剣に検討する必要があるのではないかと思つております。

とくに、中学校の場合は、行動範囲が広く、大勢の生徒とともに大きな器の中で育てるといふことは大事であり、中学校の統合は十分対応できるのではないかと思つております。

このような高齢化社会や、ますます進む地方分権の時代において、今後の人口対策や財政面について町長に伺ひし、また教育長には、中等教育が一層多様化している今日、このような中学校の統合問題について伺ひます。

## 答 宗宮孝生町長

小中学校の統合については、地域からまとまりを作つて、統合の方向が出るのが本当ではないかと思つております。行政が統合を進めるのではなくて、地域の皆さん、保護者の皆さんからのお話を聞いてまいりたいと思つております。

人口減少に歯止めをかけるための定住化対策は重要な課題であり、定住化を促進するためには「揖斐川町

に住みたい」という魅力づくりが必要で、町では、イビデン、アピなどの企業の進出により千人規模の雇用の場の確保の目途が付き、また、住宅建設を促進するため、近鉄揖斐駅周辺、旧本揖斐駅周辺地域などについて農振農用地区域から除外し、土地利用計画の見直しを行つてきました。若年世帯であれば、乳幼児・児童医療の充実、子育て支援センターの拡充は、定住化促進のひとつの要因になると考えており、今回の補正予算にも計上しているところで、

町財政は、非常に厳しい中、多様な地域条件を有する本町において効果的な定住化施策を選択しながら、中長期財政計画を踏まえ十分に検討を重ねたいと考えております。

## 答 小寺繁教育長

小規模校のプラス要因として、一人一人にきめ細かな指導が可能であることから、基礎学力を付ける、個性の伸長を図ることが比較的容易であること。個に応じた指導が比較的容易になることから、教師に精神的なゆとりが生じ、教師と子どもとの人間関係が良好になること。異年齢の集団・異学年集団での活動が日常的に行われることによつて、

地域の一員としての一体感が生まれやすいことなどがあります。

また、小規模校のマイナス要因としては、集団の中で多様な意見から学ぶ本来の学びが成立しにくいこと。多人数集団の生活の中で、練り鍛えられる部分が欠けること。人間関係が固定化して、子ども同士の中で序列化が進むことが避けられないこと。球技や合唱など一定人数の必要な活動ができないこと。専門教科の教員確保が困難となり、指導上の課題が生ずることなどといわれています。町内の7中学校は、それぞれの地域で尊い大きな伝統を創つてきています。また、地域が歴史文化に培われ、そこに子どもが育つています。近い将来に独立して社会に出て行く中学生に「自ら生きる力」を付けさせることが大きな教育目標であり、この目標達成のため、地域や保護者の学校に対する「思い」を十分に考慮したよりよい環境を創り出す義務があると考えています。このため、教育委員会において、議論を深めて参りたいと考えています。

### 坪井重憲議員

## 問 近鉄揖斐駅前整備について

我が町が大きく発展するか否かは、偏に交通網の整備にあると思ひます。町内の幹線道路である国道